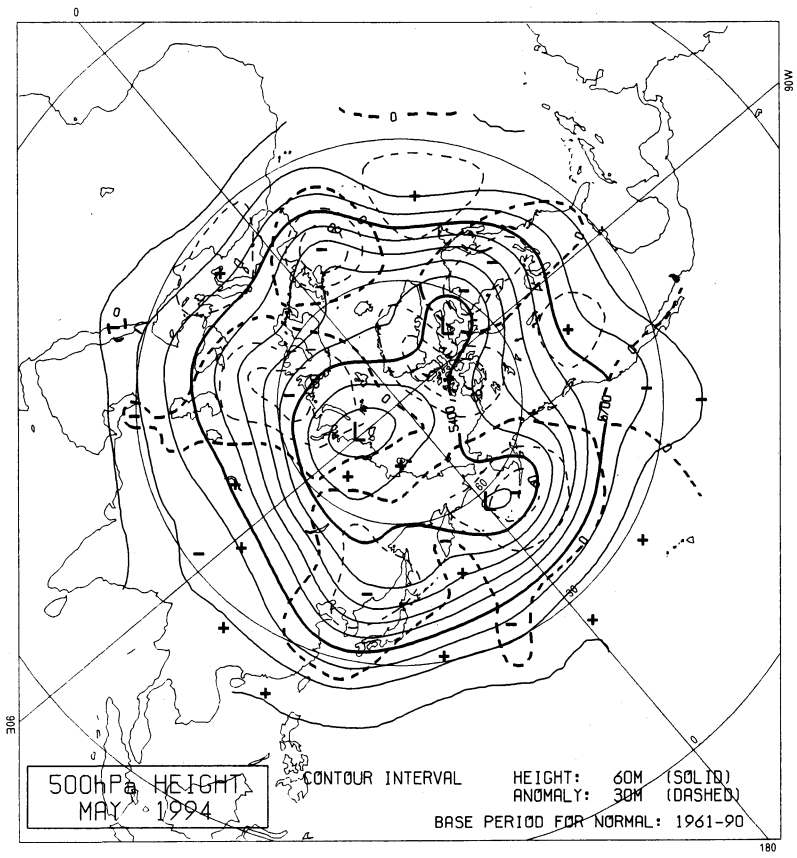


1994年5月の大気大循環と世界の天候 月平均 500 hPa 天気図



(破線は平年からの偏差. 単位m)

表 1 1994年5月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	14.1	0.9	0.7	55	87	—	カサブランカ	—	—	—	—	—	—
ベルリン	—	—	—	—	—	—	ニオロドサヘル	—	—	—	—	—	—
ローマ	18.2	0.9	1.0	26	63	0	プレトリア	—	—	—	—	—	—
イスタンブール	18.2	1.7	1.5	25	80	3	バンクーバー	13.8	1.7	2.4	40	65	2
モスクワ	9.8	-3.4	-1.3	65	111	—	ニューオーリンズ	23.9	0.1	0.1	93	80	2
オデッサ	15.6	0.5	0.3	18	46	2	セントルイス	18.3	-0.3	-0.1	44	44	1
ニューデリー	33.2	0.8	0.4	16	67	—	サンフランシスコ	14.7	0.2	0.2	39	796	5
カルカッタ	—	—	—	—	—	—	ニューヨーク	16.8	0.2	0.1	114	118	4
ボンベイ	30.3	0.2	0.4	2	22	3	マナウス	—	—	—	—	—	—
ホンコン	26.9	1.0	1.0	121	38	1	サンパウロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	15.1	-0.2	-0.2	54	127	4	ロサリオ	16.8	3.0	1.6	95	199	5
ペキン	21.0	1.0	0.9	66	229	5	ホノルル	26.3	1.0	1.7	2	6	0
シャンハイ	22.0	—	—	55	—	1	タヒチ	27.0	1.0	2.5	156	171	4
バンコク	29.9	0.1	0.1	409	186	—	ダーウィン	27.0	-0.2	-0.3	18	89	5
マニラ	—	—	—	—	—	—	キャンベラ	9.2	-0.1	-0.1	6	13	1

5月の世界の天候

5月の北半球 500 hPa 高度天気図は、太平洋北東部、大西洋北東部、ヨーロッパ北部などが負偏差域となった。日本の東方海上は正偏差に転じ、3月以降顕著だった太平洋北部全域が負偏差となる偏差パターンから変化した。30°N以南では太平洋東部を除き、広い範囲で正偏差だった。

①シベリア東部と朝鮮半島の多雨

②東アジアの高温・少雨

中国から日本にかけては、4月に引き続き高温だった。降水量は、朝鮮半島からシベリア東部にかけては多雨だったが、中国の中部から日本にかけては高温に加えて少雨が顕著だった。中国南部の福建省や江西省では4月末から5月初めに暴風雨や竜巻による被害が出た。

③ヨーロッパ北部の少雨

ヨーロッパ北部やイギリス北部は少雨で、ノルウェーのオスロの月降水量は1mm(平年の2%)だった。その南のヨーロッパ中部からロシア西部にかけては多雨傾向でポルトガルでは月降水量が平年の2倍を越えたところがあった。気温は、ヨーロッパ中部からロシア西部にかけて低温傾向だった。

④アフリカ北部の高温

アフリカ北部は高温で、アルジェリアでは少雨も顕著だった。また、中東にかけての広い範囲でも高温傾向となった。

⑤アメリカ合衆国の少雨

アメリカ合衆国では4月は多雨で洪水の発生したところもあったが、5月は北東部や西部で多雨傾向だった。他は中西部を中心に少雨となり、大豆などへの影響が懸念された。合衆国の中央部からカナダ中部・西部にかけては高温傾向だったが、合衆国東部、カナダ東部など、大陸の東側では低温傾向だった。

⑥アルゼンチン北部と中部の高温

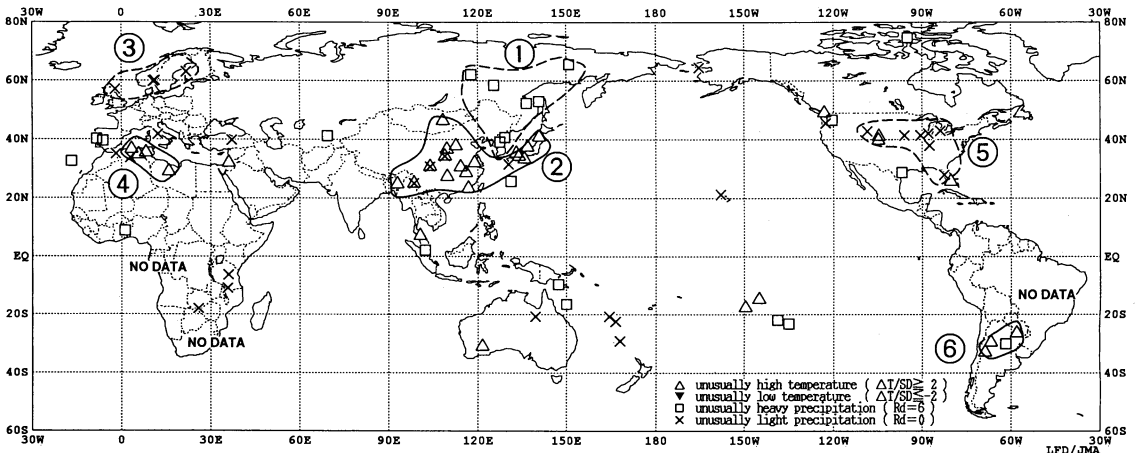
パラグアイ南部からアルゼンチンでは全般に多雨傾向で、アルゼンチンの北部から中部にかけては高温・多雨だった。パラグアイとの国境の町フォルモサでは月平均気温が23.8°C(平年差+4.6°C)、降水量は163mm(平年の1.5倍)だった。

⑦その他

インド北部・中部やパキスタンでは高温傾向で、5月下旬には猛烈な熱波による被害が伝えられたが、月平均気温は平年を1°C前後上回る程度だった。

ポリネシア南部のタヒチでは、高温・多雨だった。

(長期予報課 三浦 芳敬)



1994年5月の世界の異常天候分布図

△：高温 ▼：低温

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

□：多雨 ×：少雨

1994年5月の気候表の説明。平均値は、1961～1990年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 hPa 高度場の平均値は1961～1990年の30年平均値。

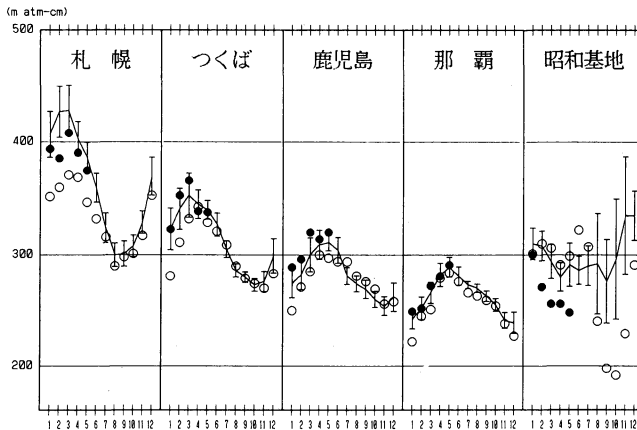
オゾン層の状況 (1994年 4月)

国内4地点(札幌, つくば, 鹿児島及び那覇)の月平均オゾン全量の推移を, 第1図に示す。1994年1~4月における各地点の状況は, 札幌では2月に平年より小さくなった他は平年並, つくばでは平年並, 鹿児島では1~3月は平年より大きかったが4月は平年並, 那覇では平年並, 昭和基地では1月は平年並であったが2月以降は平年より小さかった。特に, 昭和基地では2月以降は, その月の最小値を更新し続けている。

また, 米国航空宇宙局 (NASA) 提供のデータ

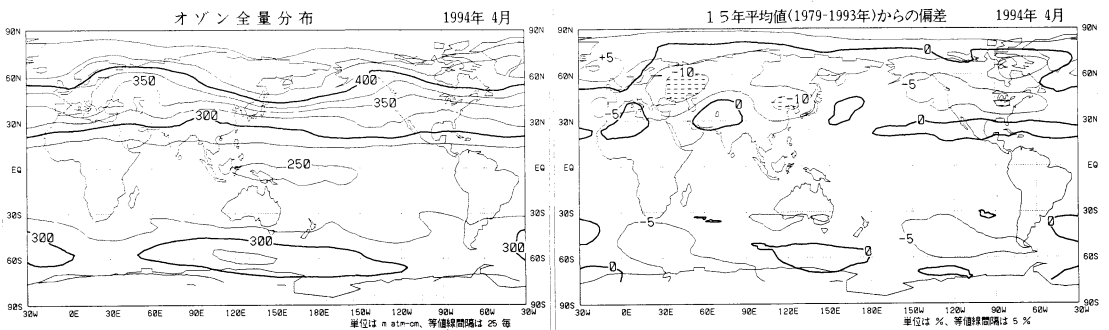
(TOMS) をドブソンオゾン分光光度計による観測値と比較検討の上作成したオゾン全量及び15年平均値(1979~1993年)との偏差(%)の全球分布図を第2図に示す。これによると, ヨーロッパロシアと中国北東部に平年比偏差が10%以上の負偏差領域が見られるが, この領域のオゾン全量は 300 m atm-cm 以上あり, 他の領域と比較して, 特に小さな値ではない。

(気象庁観測部高層課オゾン層解析室 上窪哲郎)



第1図 オゾン全量の月平均値と月別累年平均値

国内4地点(札幌, つくば, 鹿児島, 那覇)及び南極昭和基地におけるオゾン全量の月平均値を示す。黒丸印は1994年の月平均値(暫定値), 白丸印は1993年の月平均値, 実線は月別累年平均値(1961~1990年, ただし, 那覇は1974~1990年), 縦線はその標準偏差。



第2図 TOMS による1994年4月におけるオゾン全量及び平年比偏差の全球分布図

平年比偏差は1979~1993年の月別累年平均値からの偏差の百分率。米国航空宇宙局 (NASA) のデータ (TOMS) を, 気象庁がドブソンオゾン分光光度計による観測値と比較検討の上作成した。